

第55回 熊本県小学校家庭科教育研究大会

菊池・山鹿大会

報告書

大会主題

「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成」

～課題設定と振り返りの工夫を通して～



期日 令和6年10月31日(木)

会場 合志市立合志南小学校

【主催】熊本県小学校家庭科教育研究会 菊池・山鹿小学校家庭科実行委員会

【後援】熊本県教育委員会 合志市教育委員会 菊池市教育委員会 山鹿市教育委員会
大津町教育委員会 菊陽町教育委員会 日本教育公務員弘済会熊本支部

目次

I あいさつ P1

熊本県小学校家庭科教育研究会 会長 古家慎也

菊池・山鹿大会実行委員長 土井昭子

II 大会要項 P2

III 研究の実際 P3~14

【分科会】

(1) 5年 消費・環境「持続可能な社会へ 物やお金の使い方」

(2) 5年 衣生活「ミシンにトライ! 手作りで楽しい生活」

(3) 6年 食生活「まかせてね 今日の食事」

(4) 6年 課題と実践「生活を変えるチャンス!」

IV まとめ P15~16

【全体会】

(1) 実践発表

(2) 指導講評

ごあいさつ

熊本県小学校家庭科教育研究会
会長 古家 慎也

第55回熊本県小学校家庭科教育研究大会（菊池・山鹿大会）を、昨年度の熊本市大会に引き続き参集の形で開催することができ大変うれしく思います。

近年、研究大会の開催事情は大変厳しい状況にあります。本研究会においても、会員数の減少は大きな課題で、コロナ禍や働き方改革における業務縮減が拍車をかけ、熊本市以外での開催を心配する声もありました。しかし、熊本県小学校家庭科教育研究会では、家庭科という教科が学校教育の中で果たす役割を廃れさせることなく、持続可能な研究大会として県内全域で毎年開催をする道を選択しました。11月22日に開催された全国大会（三重大会）は、会員7人で運営されたそうです。そのような話を聞くと、さらにその思いは強くなります。ただし、各支部の負担を少しでも軽減するため、昨年度から、県内を6ブロックに分けての開催とし、3～4年に一度、熊本市に担当してもらい、他のブロックは、熊本市の実践の追試を可能としています。

今回の菊池・山鹿大会は、昨年度の熊本市大会の追試とはいえ、学校や地域の実態に沿って、工夫・改善されたすばらしい授業を公開していただき、参加者の新たな学びにつながる大会となりました。当面、令和8年度までは、「食生活」「衣生活」「消費・環境」「課題と実践」の4つの領域において、「生活をよりよくする」という生活の基盤を学ぶ教科の意義を大切に、県内の研究がさらに発展していくことを願っています。

本大会の会場校となりました合志南小学校は、きれいに整備された環境の中で、伸び伸びと学ぶ子どもの姿がありました。今後も、未来を創る子どもたちが、自らの生活をよりよくしていく力を育てたいと励まされた大会でもありました。

最後に、本大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた菊池支部及び山鹿支部の家庭科教育研究会の皆様にご感謝するとともに、これまでご指導・ご協力いただきました関係機関の皆様にご心から感謝を申し上げます。

ごあいさつ

菊池・山鹿大会実行委員長 土井 昭子

第55回熊本県小学校家庭科教育研究大会（菊池・山鹿大会）を、関係者の皆様のご指導・ご助言をいただきながら無事に開催することができ感謝申し上げます。

今回、日頃それぞれで研究をしています菊池と山鹿のブロック開催ということで、連絡調整が難しいこともありましたが「自分たちにできる最大の研究を」と、リモート等を活用しながら「授業メイン」のスマート県大会をめざしてきました。当日の授業では、子どもたちが実生活と重ねて考えることができるように、発問や学習過程、振り返りの工夫がなされました。また、授業研究会では参加者から経験に基づいたご意見をいただくことができました。全体会では、熊本県教育庁市町村教育局義務教育課指導主事 清永康代 様に、学習指導要領をもとに家庭科の目標等を改めてご説明いただき、本時の授業を県の重点指標に照らし合わせてご指導をいただきました。子どもたちが将来にわたりよりよい生活を営むために、家庭科の果たす役割は大きいと改めて感じました。研究で得た成果を活かしつつ、課題に向けて各地区で実践を重ねて参ります。

最後に、これまでご指導・ご助言をいただきました関係機関の皆様にご心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

第55回 熊本県小学校家庭科教育研究大会（菊池・山鹿大会）

【大会主題】 「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成」
～課題設定と振り返りの工夫を通して～

【期 日】 令和6年（2024年）10月31日（木）
【会 場】 合志市立合志南小学校
【日 程】



12:40 13:15 13:20 14:05 14:15 15:00 15:10 15:50 16:00 16:40

受付 35分	移動	公開授業① 45分	移動	公開授業② 45分	移動	授業研究会 40分	休憩	全体会 40分 (挨拶・実践発表・ 講評・次年度案内)
授業研究会の 参加領域を確 認ください。		5年3組 教室 6年2組 教室		5年2組 教室 6年3組 教室		授業研究会教室（4教室） ※全体会はオンラインで各教室に配信		

公開授業① 13:20～14:05

年・組	領域	題材	授業者	指導助言者	司会者	記録者
5年3組	消費・環境	持続可能な社会へ 物やお金の使い方	鹿本小学校 後藤春奈 教諭	熊本大学 八幡彩子 教授	大道小学校 吉良明子 教諭	菊鹿小学校 大塚美奈子 教諭
6年2組	食生活	まかせてね 今日の食事	南ヶ丘小学校 坂田光 教諭 合志小学校 山本弥生 栄養教諭	泗水東小学校 前田美幸 校長	合志楓の森小学校 島田由香 教諭	菊陽中部小学校 緒方愛 教諭

公開授業② 14:15～15:00

年・組	領域	題材	授業者	指導助言者	司会者	記録者
5年2組	衣生活	ミシンにトライ! 手作りで楽しい生活	隈府小学校 有働加織 教諭	泗水西小学校 福島恵美子 校長	旭志小学校 青井光子 教諭	菊陽中部小学校 稗田麻生 教諭
6年3組	課題と実践	生活を変える チャンス!	西合志中央小学校 岩本圭祐 教諭	市町村教育局義務教育課 清永康代 指導主事	菊陽北小学校 加藤優佳 教諭	西合志中央小学校 溝上みき 教諭

授業研究会 15:10～15:50（参加領域は受付で確認ください。）

全体会 16:00～16:40（オンライン開催 授業研究会会場でご参加ください。）

- ① 開会 ② 関係者挨拶 ③ 関係者紹介 ④ 実践発表 大道小学校:吉良明子 合志小学校:田中佳子
- ⑤ 指導・講評 熊本県教育庁市町村教育局義務教育課 清永 康代 指導主事 様
- ⑥ 次年度開催ブロック挨拶 荒尾・玉名ブロック
- ⑦ 閉会

主催 熊本県小学校教育研究会家庭科部会 菊池・山鹿小学校家庭科教育研究会
後援 熊本県教育委員会 合志市教育委員会 菊池市教育委員会 山鹿市教育委員会
大津町教育委員会 菊陽町教育委員会 日本教育弘済会熊本支部



Ⅲ 研究の実際 (1)

学年	領域	題材名
5年	消費・環境	持続可能な社会へ 物やお金の使い方

① 題材の目標と研究の視点

	〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	「学びに向かう力, 人間性等」
題材の目標	物や金銭の使い方と買い物のしくみや環境に配慮した生活について理解しているとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
研究の視点	<p>【視点1 課題設定の工夫】 今までの自分や家族の買い物を振り返り、失敗したと思う経験を出し合い、共有し合うことで、よりよい消費者になろうという意欲を高めることができるようにする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 ロイロノート内のカラーテキスト活用・お金の使い方の疑似体験・具体的な買い物の場面想定によって、児童の意思決定や表現・集約ができるようにする。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 振り返りシート（ロイロノート）を活用したり、児童の記入例を全体に紹介したりすることによって、児童の振り返り意欲を高める。</p>		

② 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 買い物のしくみや支払いの方法について理解している。	ア 限りある物や金銭の使い方や消費者の役割について考えている。	ア 家族の一員として、今までの買い物を振り返り、生活を改善しようとしている。
イ 購入に必要な情報の収集・整理について理解し、適切にできる。	イ さまざまな情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い物の仕方について考え工夫している。	イ 上手な物の選び方、使い方の学習を生かして、環境や資源に配慮した生活を工夫し、実践しようとしている。

③ 指導と評価の計画

課題	次	時	主たる学習活動	評価内容・方法
目指せ 買い物名人!!	1	1	○消費者の役割や必要な物を手に入れるためのいろいろな方法について理解する。○自身の買い物の失敗の経験を想起する。	【主】① 観察・振り返りシート
	2	1	○収入と支出のバランスがとれるよう、家庭では計画を立ててお金を使っていることを確認する。	【思】① 観察・振り返りシート
		1	●買い物の場면을具体的に想起し、売買契約について学ぶ。	【知】① 演習・振り返りシート
		2	○買い物の方法、支払いの方法について学び、買い物をするとき、どのような情報を集め、整理し、どのように選ぶかを考える。	【知】②【思】② 観察・振り返りシート
	3	1	○消費者として持続可能な生活の工夫についてできることを考え、買い物と環境や資源との関わりを知る。	【主】② 観察・振り返りシート

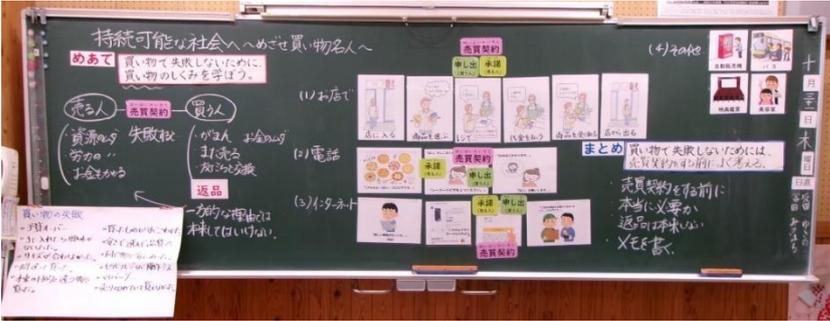
④ 公開授業の様子

5年 題材名 「持続可能な社会へ 物やお金の使い方」

ア 本時の目標

筆箱を買う場面などを具体的に想起しながら、売買契約について理解することができる。

イ 授業の実際

過程	時間	学習活動 ○教師の発問 ・児童の反応
導入	8分	<p>1 本時の学習課題を見つける。</p> <p>○みんなに買い物の失敗の4コマ漫画を描いてもらいましたが、1つ紹介しますね。タイトルはインターネット。みなさんなら、この後どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、売り買いする。違うところに売る。 ・店にクレームを入れる。 ・カードだから他の友達と交換する。 ・口コミ欄に最低ランクの評価をつける。 <p>○売買契約は法律上の約束を結んでいるので、一方的な理由で返品してはいけません。今日は、買い物で失敗しないために、買い物のしくみを学びましょう。</p> 
展開	27分	<p>2 売買契約について学ぶ。</p> <p>(1) お店での筆箱の買い物場面について考える。</p> <p>○どの場面で、売買契約が成立しているでしょうか。理由も考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代金と筆箱を交換しているときだと思ふ。 ・商品を受け取っていないので契約は成立していないと思ふ。 <p>(2) 電話での買い物場面について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ください、かしこまりましたのところですか。 <p>(3) インターネット売買について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カートに入れる時かな。 ・注文を確定する時かな。 <p>(4) その他の場面について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機は、押した瞬間。 <p>(5) 売買契約の練習問題を解く。</p>  
終末	10分	<p>○買い物で失敗しないためには、どうしたらよいか、今日学んだ言葉を入れながら、書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物で失敗しないために、売買契約をする前に、本当に買おうとしているものなのか確かめる。一方的な理由で返品はしない方がいい。 ・買い物で失敗しないために、メモをして、余分なお金をもたずインターネットを使わず、自分の目で見て買う。 <p>○振り返りを書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売買契約前によく考えて買い物ができるようになりたい。 ・返品は本来してはいけないことを新しく学びました。 ・売買契約がどこで成立するか知りました。 

⑤ 授業研究会

ア 研究協議

研究協議会では、「 」を協議の柱として話し合いを行った。

Q 前時までの様子はどうだったか教えてほしい。

A 昨年度の熊本市の実践である買い物ゲームをしようと思ったが、飛び込みの授業でもあるし、実態も考えて、文科省の買い物すごろくゲームに取り組みさせた。買い物の疑似体験をし、計画的にお金を使うことが必要だと学ぶことができた。

Q 契約のところを重視されていたが、中学校の内容との関連について教えてほしい。

A 店舗販売、無店舗販売など出てくるとは予想していた。本時は3つの場合（店舗販売、電話、インターネット）を扱った。今回は、対面販売を中心に扱うことにした。

Q この単元を通して、持続可能な社会に向けて意識していくことは何か。

A 今回取り上げたお店の人の話のお店は、食品も扱われていたので、そこまで広げてもよかった。

【感想】

・子どもたちの中では、「返品」はいいんだという感覚がある。最後の感想を言った児童は、本時の中で返品ということが一番印象に残った。「本来返品はしない方がいい。」と思えたことがよかった。

・消費者トラブルは10歳未満の子でもある。ゲームの課金などで高額になることもある。対面でも現金を扱わないことがある。契約が成立する場面は、小さい子どもでも知っておかなければならない。家庭科以外でも、教員としてもっておかなければならない。

・課題設定がとても大事だと思った。振り返りをみんなが一斉に書き始めた。本時の学習内容が子どもたちの中ですっと落ちていた。

・子どもたちが、本時の学習内容をしっかり学び取っていた感じがした。

・大人の自分でも分かっているようで、分かっていたことがあり、この学習を通して、よく分かった。保護者が見ている授業参観などで見ていただくと思う。

イ 指導助言

熊本大学大学院教育学研究科教授 八幡彩子先生

すばらしい授業であった。夏の事前研、その後の事前授業と、実際に授業をする中でかなり練り上げられ

ていた。子どもの実態が違えば、授業の組み立てを変えていかなければならない。

この単元で押さえるべきポイントを学習指導要領から確認したい。小学校では対面で現金を使った買い物を中心に扱い、中学校では、無店舗販売、責任を伴う行動、消費者トラブルに対応することなどを扱う。その基礎基本を押さえることが小学校である。昨年度と今年度の大会のテーマである、自らの生活をよくしようと工夫することが、課題を解決する力につながる。

知識・技能の習得は、以前は中学校の内容であったが、小学校ではどう位置付けるか、工夫された授業であった。現代社会は、いろいろな買い方、支払い方がある。多様な状況の中で、いろいろな場面で汎化していくことが大切である。

本時では、ワークシートを準備し、契約成立の場面がどこであるかを確認して、徹底を図っていたことがとてもよかった。冒頭の課題設定では、買い物の失敗の4コマ漫画を提示されていた。返品についてもお店の方の話をもとに扱われていた。売買契約について知ること、そこに至ると返品ができないので、その前によく考えることが大切だと気づくことができた。自分自身の買い物を振り返り、最後の子どもたちの姿から、本時の学びが今後の買い物の実践につながっていくことが予想できる。今後の学習では、よりよい消費者とは、持続可能な社会の構築（SDGs）に貢献できる消費者であることを考えておくことが大事である。

ウ 成果と課題

○課題設定場面で、買い物の失敗の経験談を児童自らが描いた4コマ漫画を扱った。それを全体で共有したことで、「買い物で失敗しないために買い物の仕組みを知る」という本時の学習につながった。

○買い物で失敗しないためにはどう行動していくか、本時の学びを活かした振り返りができていた。

○ロイロノートの活用で、売買契約の成立場面を考え、全体で共有し、考えることができた。予想とは違ったことに、驚いていた児童もいたが、申し出と承諾で契約が成立することを理解できた。

○契約成立場面の練習問題に取り組んだことで、売買契約がどこで成立するのか徹底することができた。

△持続可能な社会に向けての見方・考え方を題材の中に随所に取り入れ、意識を高めていく必要がある。

△小学校、中学校のつながりを考えて、小学校で押さえるべき学習内容を指導していく。

Ⅲ 研究の実際 (2)

学 年	領 域	題 材 名
5 年	衣生活	ミシンにトライ！手作りで楽しい生活

① 題材の目標と研究の視点

	〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	「学びに向かう力, 人間性等」
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 安全なミシンの使い方を理解し、適切に使うことができる。 丈夫に作るための製作計画を立て、製作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を見つめ、生活を豊かにするための課題を見だし、さまざまな解決方法を考え、工夫している。 実践を評価・改善したり、考えたことを表現したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として、生活をよりよくするための課題を見つけ、改善しようと主体的に取り組もうとしている。 実践を振り返り改善するなど、生活を豊かにする工夫をし、実践しようとしている。
研究の視点	<p>【視点1 課題設定の工夫】 題材導入時に「使いやすく長く使うことができるエプロンを作ろう」という題材を通したためあてを設定することで、継続的に意欲を喚起させ、そのために必要な手順や製作計画、工夫を自ら考えることができるようにする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 実物や見本、写真を提示し、見比べる活動を行うことで、一つ一つの手順をイメージしやすくする。また、見本をもとにぬう順番や工夫について考え交流し、自分の考えを広げ深めながら製作手順を明確にしていく。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 題材を通した振り返りシートを活用し、「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行うことで、自分の生活を振り返り、生活に学びを生かそうとしたり、自分の生活の変化や成長を実感できるようにしたりする。</p>		

② 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。	ア マイエプロンの製作計画やミシンぬいによる製作について問題を見だし、課題を設定している。	ア 家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いたミシンぬいによる製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。
イ ミシンなどに用具の安全な取り扱いやミシンぬいによる目的に応じたぬい方について理解しているとともに適切にできる。	イ 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	イ 実践を振り返って改善したり、生活を工夫したりして、実践しようとしている。

③ 指導と評価の計画

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法
使いやすく長く使うことができるエプロンを作ろう。	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ミシンぬいと手ぬいの違いを考えたり、身近なミシンぬいの布製品を観察したりして、ミシンぬいのよさに気付く。 ○自分の生活を豊かにするものを考え、その製作に必要な技能や準備物などを考え、製作計画を立てる。 	【思】①シート
	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ミシンの各部の名前、使い方、安全に使うためのルールを知る。 ○ミシンの準備の仕方を知り、下糸や上糸の準備を練習する。 	【知】①シート 【知】②観察・シート
		3	<ul style="list-style-type: none"> ○ミシンを使って、直線ぬいを練習する。 	【思】①シート
		4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな種類の布の素材に触れ、違いや活用方法を考える活動を通して、エプロンにふさわしい布を選び、エプロンに必要な布の大きさを知る。 	
	3	6	<ul style="list-style-type: none"> ●エプロンの製作手順や工夫を考え、製作計画を立てる。 ○製作計画に沿って、製作する。 ①布にしるしをつける。②直線ぬいをする。 	【思】①シート 【知】②観察・作品 【思】②シート
	10	<ul style="list-style-type: none"> ③かざりやポケットをつける。④アイロンをかけ、ひもを通す。 	【主】①観察・シート	
4	11	<ul style="list-style-type: none"> ○作品を友達と見せ合い、自分の製作を振り返る。 	【主】②振り返りシート	

④ 公開授業の様子

5年 題材名「ミシンにトライ！ 手作りで楽しい生活（東京書籍）」

ア 本時の目標

エプロンの製作手順や使いやすく長く使うことができるための工夫を考えることができる。

イ 授業の実際

過程	時間	学習活動 ○教師の発問 ・児童の反応
導入	3分	<p>1 本時のめあてを確認する。 ○どんな順番でエプロンを作るのだろう。 ・上からぬう。 ・下からぬう。</p> <div data-bbox="300 533 1062 640" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【めあて】「使いやすく長く使うことができるエプロン」の製作手順を考えよう。</p> </div> 
展開	25分	<p>2 ぬう順番を考える。 ○エプロンを作るには、どこをどんな順番でぬうとよいか考えましょう。 (1) 個人やグループで考える。 (2) 全体で確認する。 ・布の横の部分を1番先にぬう。 ・ひもを通すななめのところを先にぬう。 3 ぬい方の工夫を考える。 (1) グループで考える。 ○使いやすく長く使うことができるための工夫を見つけましょう。 ・裾の部分が大きく折り曲げてある。 ・ひもがひきやすいように、間をあけてぬってある。 (2) 全体で見つけた工夫を出し合い、確認する。 ○どんな工夫が見つかりましたか。 ・ひもを通すところの幅が広くて、ひもの調節がしやすい。 ・大きくなったら裾を長くできるように、大きく曲げておく。 ・ぬい始めとぬい終わりは、返しぬいをして丈夫にする。 ・ひもを動かすところは、はみ出してぬう。 ○なぜさっきの順番でぬう必要があるのか、分かりましたか。 ・あとから裾を長くできるように、横の布を先にぬう。 ・最後にひもを通すために、ななめの部分は最後にぬう。</p>  
終末	10分	<p>4 本時の学習について、まとめをする。</p> <div data-bbox="300 1406 1378 1514" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【まとめ】ひもを通すところを最後にぬったり、すそを大きく曲げたり、返しぬいをしたりすると、使いやすく長く使うことができるエプロンになる。</p> </div> <p>5 学びを振り返る。 ○今日の学習のふり返りをしましょう。 ・長く使いやすくつくるための工夫があることが分かった。 ・作り方を守ることで、学習のゴールにあてはまると思った。 ・縫い方にはいろいろな工夫や順番があることが分かった。</p> 

⑤ 授業研究会

ア 研究協議

Q 最終的に、今回の授業の準備物に精査された理由を教えてください。

A まずは1人で考える時間を確保するために、折り紙のエプロンを準備した。グループで考えさせるときは、実際に見ないと理解できない部分があると思ったため、布のミニエプロンも用意した。また、気になったところを拡大して見ることができるといいと思ったので、今回はロイロノートを活用した。

Q ミシンの使い方を子どもたちに指導する上で、困ったことや注意をするべきことがあれば教えてください。

Q 学校のミシンの台数が限られている。1時間で直線縫いの指導をされているが、どのようにされたのか。

A 指導をする上で、合志南小学校のミシンが教科書と違うものだった点、3人に1台しかミシンがなかった点が大変だった。指導に当たっては、「糸通し選手権」と名付けて、班の全員が糸を通せるか何度も練習をしたり、班で1枚の雑巾を縫うことを目標に直線縫いの練習をしたりするなどの工夫をした。次時からの指導では、地域のボランティアの方にも来て頂く予定。また、1か所だけ自分の力で縫うように指導しておくことで、周りに力を借りて完成させても、教師が評価できる。

Q 子ども達は、返し縫いの知識を、どれだけもって授業に臨んでいたのか。

A 手縫いで雑巾づくりに取り組んだときに学習している。また、手縫いでつくったものとミシンで作ったものを比べる学習もしたことで、それぞれ縫い方の良さが分かったと思う。

【感想】

・ICTが効果的に活用されており、とても分かりやすかった。所々で、先生がめあての「使いやすく長く」という言葉にかえて考えさせていたことで、子ども達の思考がぶれなかった。事前に、完成しているエプロンを見たり触ったりしていると、子供たちの気付きがもっと早かったと思う。また、三つ折りは前時で学習しておく、最後の縫う順番の復習のときにスムーズに流れたのではないかと思った。

・6年生のナップザック製作の指導も、なかなか時間内で終わらない。縫う順番やその理由をしっかりと押さえておくことの重要性を改めて感じた。

・縫い方の工夫を班で考える活動のところでは、画像を拡大することで、はみ出して縫う工夫に気付くことができていた。見本のエプロンの糸の色をもっと見やすくすると、もっと気付きが早かったのではないか。また、Aのエプロンの丈が短くなっていれば、視覚的にも理解できたのではないか。

イ 指導助言

菊池市立泗水西小学校 校長 福島恵美子先生

・小学校家庭科の目標について

「生活をよりよくしようと工夫する」という言葉がキーワードとして出てきている。今回の授業では、単元を通して「生活をよりよくしようと工夫する」一貫した目標があったのがよかった。家庭科で育成を目指す資質・能力では、中学校、高校までの系統を見通して、小学校で必要な力を確実に身に付けさせることが必要になってくる。

・授業の展開について

学習の目標が、子供たち自身の生活が豊かになるものとなっていた点が良かった。また、「使いやすく長く」というキーワードが授業の中で一貫して使われていたことで、流れが整理されていた。板書にも、単元の学習の流れが掲示されていたことで、子供たちの見通しや意欲の継続に繋がっていた。紙のエプロン、布のミニエプロンと、準備物も工夫されていた。また、「なぜその順番でつくるのか」という手順の根拠を考えさせることは、とても大切なことなので、他の単元の学習でも大事にしてほしい。

・振り返りの工夫について

子ども達の振り返りには、「単元のゴールに当てはまる。」など、ゴールへの見通しをもった素晴らしい振り返りが出ていた。毎時間のワークシートの振り返りだけでも十分、次時に繋がる振り返りができている。

・ICTの活用について

前時までの授業でも、デジタル教科書の動画を使って自分のタイミングでミシンの使い方を確認できるようにしていたのが良かった。

ウ 成果と課題

○ 手順の根拠や工夫について考える活動を通して、使いやすく長く使えるエプロンを作ることに子ども達が意欲をもって取り組むことができていた。

○ 単元終了時の姿や、学習課題を毎時間提示することによって、単元を通して、ゴールの見通しをもって活動することができていた。

○ 目的に合った準備物が用意されていたり、ICTが効果的に活用されていたりしたことで、子ども達が視覚的に工夫に気付くことができていた。

△ 事前に完成しているエプロンに触れさせたり、見本のエプロンの糸の色をもっと見やすくしたりしていると、子供たちの気付きがもっと早かった。

△ 学習事項がたくさんあったため、三つ折りなど、前時までに学習できるものは押さえておくよかった。

Ⅲ 研究の実際 (3)

学 年	領 域	題 材 名
6年	食生活	まかせてね 今日の食事

① 題材の目標と研究の視点

	〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	「学びに向かう力, 人間性等」
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解する。 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解する。 材料に適したゆで方、いため方を理解し適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1食分の献立の栄養のバランスや環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定する。 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し考えたことを表現する等して課題を解決する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として生活をよりよくするために、栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について、主体的に取り組もうとしている。 自分の生活を振り返って改善したり、工夫したりして実践しようとしている。
研究の視点	<p>【視点1 課題設定の工夫】 児童の実態調査に加え保護者へのアンケート結果や設定家族の食生活を提示することで自分の食生活における問題に気づき、なりたい自分の姿を具体的にイメージできるようにする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 自分や家族の健康を考えた献立づくりにおいては、設定家族の献立について、1食分の献立作成プログラム（熊本市教育センター作成）を活用して栄養のバランスを考えた献立に改善する活動を行う。また、調理実習や実践報告会においては、調理の過程や作った献立を画像や動画で記録したものを発表させる。これらを通して、自分の考えを表現したり他者の考えを学んだりして、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 生活の中から課題を見出し、学んだことを生活に生かすという教科の特質から「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行う。また、自分の生活の変化や成長を実感できるようにするためにワークシートを活用し、題材を通して振り返りを蓄積していく。さらに調理の様子や映像を残しておき、技能の習得状況を把握するとともに、改善点ができるようにする。</p>		

② 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解している。	ア 1食分の献立の栄養のバランスや環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。	ア 家族の一員として生活をよりよくするために、栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について、主体的に取り組む。
イ 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。	イ 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	イ 自分の生活を振り返って改善したり工夫したりして、実践しようとしている。
ウ 材料に適したゆで方、いため方を理解しているとともに、適切にできる。		

③ 指導と評価の計画

次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
1	1	○アンケート結果や設定家族の献立をもとに自分の食生活を振り返り、題材を通したためあてを設定する。	【思】①振り返りシート 【主】①振り返りシート
2	2	○主食・主菜・副菜・汁物を組み合わせて献立を立てることや、献立を立てる順番を理解する。	【知】①学習シート 【主】①振り返りシート
	3	●一食分の献立を考える活動を通して、栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解する。	【知】①学習シート ①振り返りシート
	4	○ゆでる、いためる調理を組み合わせた「野菜のベーコン巻き」の調理計画を立てる。	【知】②学習シート 【思】①学習シート
	5	○調理する。(一人調理)	【知】③行動観察・学習シート 【主】①行動観察
3	7	○家族のために作る1食分の献立を考え、調理計画を立てる。(副菜・汁物)	【知】②学習シート 【思】①学習シート
4	9 10	○家庭実践報告書を作成し、自分の家庭実践を振り返る。実践報告会を通して、これからの食生活に生かす計画を立てる。	【思】①報告書・振り返り 【思】②振り返りシート 【主】②振り返りシート

④公開授業の様子

6年2組 題材名「まかせてね 今日の食事」(東京書籍)

ア 本時の目標

1 食分の献立を考える活動を通して、栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解することができる。

イ 授業の実際

過程	時間	学習活動	○教師の発問	・児童の反応
導入	5	1 はるさんの献立を確認し、本時のめあてを立てる。 ○はるさんが考えた献立を見て気づいたことはありますか。 ・肉ばかりで栄養が足りていない。 ・緑を足したい。(栄養素の量を見せて考える) ・黄色が多くてバランスがとれていない。		
		栄養のバランスを考えた献立を立てよう。		
展開	3 5	2 はるさんの献立について考える。(ロイロノートでカードを配信) (1) 個人で考える。(献立を選んで栄養素確認) ○はるさんの献立をよりよくするにはどうしたらよいでしょうか。 ・汁物と副菜を変える。黄と青と緑のバランスが心配。 ・黄色が8個ある。 (2) 栄養バランスについて知る。 ○栄養バランスについて栄養教諭の山本先生に聞いてみましょう。 ○先日の給食です。献立は、5大栄養素、赤・黄・緑に分類しバランスを考えています。ポイントは、①沢山の材料を使って5大栄養素をそえること。②黄：赤：緑＝3：1：2となるようバランスを考えていることです。 ○例えば黄色が6、9、12だったら？ ・バランスよくなる。 (3) 友達と考える。(班の友達と自分の考えを伝えあう) ○友達と意見交流しましょう。 ・副菜を生野菜にし、量だけではなく彩りも良くなった。 3 栄養バランスを考えた献立の立て方のポイントをまとめる。 ○友達と意見交流した献立について、発表しましょう。 ・ツナサラダにした。9：3：5でバランスがとれた。 ・ポテトサラダにした。12：4：8で考えた。 (1) 全体で意見を交流する。 ○栄養のバランスを考えた献立作りのポイントをまとめましょう。		 
		副菜の緑や汁物で栄養のバランスを整えることができる。		
終末	5	4 本時の学びを振り返る。 ○栄養のバランスを考えた食事づくりができる自分に近づくことができましたか。感想を書くかタイピングで入力し、提出箱に送る。		

⑤授業研究会

ア 研究協議

- Q 5つの空席は欠席ですか。
- A 病欠、他。
- Q 「めあて」は子どもから引き出せなかったか。
- A 本時の時間の関係上、前時の授業と本時の授業からの流れで、予め設定した。
- Q 炭水化物が沢山必要な理由の説明がなかったのはなぜ。
- A 子どもの声を拾い上げて、栄養教諭の山本先生に質問すれば良かった。
- Q 「美味しければいい。」と言う発言があったが。
- A 聞き取ることができなかったが、食べたいもので考えて欲しかった。
- Q 児童のはじめの考えと、栄養教諭の山本先生の話の後の考えを可視化して比較できなかったか。
- A 前時の考えと本時の考えを比較することはできたが、まとめの学習で生かせると思う。
- Q ロイロノートのシートは良かったが、どういった経緯で使うことになったか。
- A 今回は、熊本市大会を受けての追試の授業であったため、活用した。
- Q 課題設定と振り返りについて、どのようなお考えがあるか。
- A 1時間目の授業で自分の食生活を振り返り課題をみつけた。授業を通して、どういうところなら頑張れるかという課題を設定し、最後の調理につなげられるようにしている。振り返りについては、時間の都合上、感想に置き換えた。
- Q 主食と主菜が決まっており、汁物と副菜だけを考えることにした経緯が知りたい。
- A 5年と6年で既習している汁物と副菜は自分で考えることができるから。(学習指導要領にも記載されている。)

【作成者である白山小学校の清水先生より】

このソフトは、バージョン1と2があり、自分でスタンプをつけるのはバージョン1、本日のものが2でした。はじめは1を使って子どもなりに工夫してバランスを取る授業をしていたが、川上小学校の栄養教諭に計算をしていただき、○1個が50gという設定にしている。5年生のゆで野菜の学習から続いており、生野菜だと○は少なく、ゆで野菜だと○は多くなる。

給食のご飯を減らしてダイエットをする子どもたちにも、栄養バランスが大切であることを伝えたい。バランス3:1:2についても献立を立てる授業、味、栄養、彩り、指導要領に書いてあるポイントを入れながら活用してほしい。

このソフトは、10年ほど前の九州大会で使用したものを改良している。給食で出ているものばかり。分量やレシピも入っている。是非活用してほしい。使いづらいところなどは改良していく。

イ 指導助言

菊池市立泗水東小学校 校長 前田美幸先生

・指導上の工夫について

今回熊本市の指導案とソフトを使うという大会の趣旨でした。指導案検討会ではソフトを触りながらのスタートだった。触りながら覚え学び、事前打ち合わせでも触りながら話し合った。

その中で分かったことは、このソフトはとても理にかなっているということが分かった。

ロイロノートのスキルがなくても使え、更に45分の授業に収まるソフトであり、視覚化もできるので、子ども達にとってはとても分かりやすい。

栄養のバランスについても、3:1:2とするか検討を重ねた。栄養素黄・赤・緑の○のグラム数については小学校では扱わないが、授業の中で押さえておくことより分かりやすかった。しかし、小学校での取り扱いが難しいため、今回は取り扱わなかった。作成者の意図を理解するということが大事だった。

本日、ソフトの作成者がいらっしやっていたので、新たな学びがあったため、今後有効活用できる。

このソフトは、熊本市教育センターのホームページから入り、活用することができる。

また、今回TTとして、栄養教諭の山本先生の指導があったのも有効的だった。食の乱れや、食生活の課題等から栄養教諭制度ができているので、給食時間以外に授業等でも是非活用してほしい。

今回、栄養教諭を「プロに聞いてもらおう」という紹介があり興味関心を高めた。子どもたちにとって印象に残る授業になったのではないか。

本日は振り返りの時間はなかったが、本来は題材、生活につなぐ視点で書く予定だった。今後、ロイロノートに慣れることで、シートに蓄積され自分の変容が分かる。

ウ 成果と課題

- ロイロノートを使うことによって、どういった食事の採り方がバランスが良いのか、子ども達が主体的に献立を作ることができた。そこに栄養教諭を活用したことで、栄養バランス(五大栄養素の採り方)の根拠になるものを知ることができた。
- ロイロノートで、班の人の考えを知ることによって、よりよい献立の立て方を話し合えた。
- ロイロノートの活用で、全ての子どもが主体的に授業に参加することができた。
- △ 黄・赤・緑の3:1:2の数にとらわれてしまい、栄養素の大切さを考えることからそれてしまう可能性があった。
- △ 栄養素の○の数の基準を授業者が把握できていなかったが、今回の説明があって知ることができた。

Ⅲ 研究の実際 (4)

学 年	領 域	題 材 名
6 年	課題と実践	生活を変えるチャンス！

① 題材の目標と研究の視点

	【思考力、判断力、表現力等】	「学びに向かう力、人間性等」
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事または家族との関わりについて日常生活の中から課題を設定し、工夫して計画を立てる。 課題解決に向けて実践し、結果を評価、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
目標に向かうための手立て	<p>【視点1 課題設定の工夫】 設定家族の1日から課題を見付け、自分の家庭の課題と結び付けることや、前回の実践からの気付きや改善点をもとにパワーアップポイントを考えることで、新たな課題もしくは同じ課題に対しての新たな取組に活かすというねらいを明確にする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 パワーアップポイントをもとに、自分の家族との関わりの中での新たな課題へとつなぎたい。これまで学習してきた題材の振り返りシートから、気付きや改善点を共有しアドバイスをし合うことで、持続可能でよりよい生活の改善のヒントとなるようにする。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 今までの学習や、授業の終末を振り返ることで、実践に向けた意欲の向上と課題解決に向けた取組をよりよいものにする。課題と改善策はロイロノートにまとめ、活用できるようにする。</p>	

② 題材の評価基準

思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①家庭の仕事または家族との関わりについて日常生活の中から問題を見だし、課題を設定している。 ②家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けて、よりよい方法を考え、計画を工夫している。 ③家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。 ④家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けて実践した結果を評価・改善している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ②家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ③家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題を見つけ、次の実践に取り組もうとしている。

③指導と評価の計画

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
家族のためによりよく生きることを実践しよう	1	1	●自分の生活を見つめ、問題を見だし、学習課題を設定する。	【思】①学習シート 【主】①振り返りシート
		課外	○家族とともに仮課題について話し合い、決定する。	【主】①学習シート
	2	1	○実践するための計画を立てる。	【思】②実践レポート
		課外	○家庭で実践する。 ○実践報告書を作る。	【思】③実践レポート 【主】②振り返りシート
	3	1	○実践報告会を開き、これからの生活に活かせることを考える。	【思】④学習シート 【主】③振り返りシート

④ 公開授業の様子

6年 題材名「 生活を変えるチャンス 」

ア 本時の目標

今まで学習してきたことを生かして、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考えることができる。

イ 授業の実際

過程	時間	学習活動	○教師の発問	・児童の反応
導入		<p>1 本時の学習課題を見つける。</p> <p>○このバッグはみんなが学んだ何を使ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシン ・ナップザック作り <p>○他にはこれまで何を学びましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習・野菜炒め・茹で野菜サラダ・お茶 ・エプロン・お金の使い方 <p>(2) 設定家族の話聞いて、流れを捉える。</p> <p>①課題を見つける②計画をたてる③パワーアップ大作戦</p> <p>パワーアップポイントは、もっとよくするために考えることです。</p>		
		<p>【めあて】よりよい生活をするために、自分や家族に向けたパワーアップ大作戦を考えよう。</p>		
展開		<p>2 教師の例を聞き、身近なこととして捉え、生活の中の課題を考える。</p> <p>○自分の家庭について自由に課題を設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親のために夕食の副菜を作る ・休みの日に朝ごはんを作ってみよう ・部屋が汚いから、片付けたい <p>3 友達の考えを聞き、課題を仮決定する。</p> <p>○友達と相談してどのようなパワーアップポイントがあるか考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族分の分量を考える ・本のサイズに合ったものを作る <p>○パワーアップ大作戦に名前をつけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で朝食(主食・副菜)を作れるようになる ・おばあちゃんが喜ぶような、美味しいお菓子を作る ・温かいスリッパを丈夫にする ・両親のために栄養バランスがよいように作る 		 
終末		<p>4 次時の学習を知り、本時の学びを振り返る。</p> <p>○どんなことに気をつけて考えたのか、振り返りをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんのことを考えて書いた ・自分だけじゃなくて家族のことを考えて書いた。 ・色々考え、家族のために料理をしようと考えた。 <p>◇その作戦が実行可能かお家の人と確認してきてください。</p>		

⑤ 授業研究会

ア 研究協議

- Q 事前授業との違いやそれを踏まえた変更点はあるか。
- A 教室の雰囲気違った。
互いに知っている児童がいた。
はじめは計画を立てるところまで考えていた。
課題を見つけて、パワーアップポイントを考えるところをメインに変更した。
パワーアップ大作戦とは何かを明確にするために、書く活動で整理する時間を増やした。
- Q 「課題と実践」の領域の授業の難しさは何か。
学んだことをいかに生活に落とし込めるか
子供たちは何でもしてもらって当たり前になっているため、家族の一員としての自覚を持たせることが必要である。
- Q 自分の生活を振り返るためには、家庭との連携が必要だと思うが、今回はどのように実施したのか。
- A 家庭で話す時間は必要だと思う。今回は家庭との連携はできなかった。
- Q 先生の考えるパワーアップポイントとは何か。
自分と家族という視点を育てること
課題発見→計画→実施サイクルをつくるための授業にしたかった。
自分や家族の生活をより良くするためのポイント

【感想】

熊本市の先行実施を受けて

- ・コロナ前 指導要領の改訂前に全国大会で熊本市から先行実施で提案をした。
- ・先生方が困るであろう新しく入ってきた「課題と実践」「消費・生活」領域を行った。
- ・本年度は熊本市の追施
- ・実態として「課題と実践」を実施していない場合が多いが、指導要領にも載っている「家族・家庭生活」と「食生活」との違いを理解しておく必要がある。
- ・見方・考え方を働かせるために、教科書の最初のページを使うとよい。
- ・どの視点が上がったのかの価値づけも大切になってくる。
- ・「課題と実践」の授業がこれから大切。
- ・変化の大きい社会で必要な力になってくる。
- ・実態を見つめさせながら授業をすることが大切だと実感した。
- ・先生の話をもとに子どもたちが自分自身を見つめる機会になっていた。
- ・授業をするときに自分の生活と結びつけ、子どもたち自身が家族に目を向けられていた。

イ 指導助言

市町村教育局義務教育課指導主事 清永康代 様

- ・授業者の先生自身が生活を開いたことで、子どもたちも自分事として捉えられていた。
 - ・課題発見→計画→実施のサイクル
 - ・課題を意識することが難しい子たちにも、マイナスをプラスにすることではなく、プラスにプラスでもいい。
 - ・少しのステップアップでも子供の達成感になる。
 - ・家庭科をやってみたいと思う先生が増えるようにしていきたい。
 - ・家庭科は今役立つかを実感しにくいので工夫が必要
- ① 課題設定の工夫
課題はマイナスだけではない「+から+」もあり
- ②指導の工夫
自己決定の場の確保
- ・授業の中に指導要領の内容がたくさん散りばめられていた。
 - ・家庭が厳しい場合は、学校での実施も必要

ウ 成果と課題

○設定家族や教師の経験談を聞いたことで、子どもたちが興味を持って、自分の生活と結びつけ、課題を見つけることができた。

○課題発見→計画→実施のサイクルのきっかけになっていた。

○板書に流れを示したことで、見通しを持って取り組むことができた。

△課題を見つけるためには、家庭との連携も必要。

△これまでの学習を振り返るために、ICTを活用し、クラウドに振り返りを保存したり、教科書を開いて内容を振り返ったりするとよかった。

△子どもの考えを板書にも残すことで、考えるヒントにもなる。

IV まとめ 【全体会】

(1) 実践発表

研究部長：吉良明子（大道小）、田中佳子（合志小）

① 研究の概要説明

昨年度の熊本市大会の研究に学びながら実践を進めてきた。研究主題の「生活をよりよくしようと工夫する」とは、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせて生活を創意工夫すること、さらに理解したことをもとに目的や状況に応じて、豊かな生活を実践する力や実践的態度を育てることとした。「課題設定の工夫」「指導の工夫」「振り返りの工夫」の3つの視点から実践を行った。

② 山鹿地区の実践

5年生「ソーイング はじめの一步」（開隆堂）ガーゼマスクを使用し、ウォールポケットを製作した。布巾の製作手順を学習支援アプリ「ロイロノート」で市内の小学校で共有した。児童は、生活に役立つものを作り上げる喜びを感じていた。布マスクを活用したことは、SDGsの意識づけにもなった。

6年生の「こんだてを工夫して」（開隆堂）では個別実習に取り組んだ。互いにアドバイスやサポートを行い、学び合いながら学習ができた。

③ 菊池地区の実践

6年生「まかせてね 今日の食事」（東京書籍）「課題設定の工夫」として、アンケートにより1食分の献立を調理する時の実態把握を行った。家族の思いや調理する時の不安を出し合うことで、献立を考えるとときだけでなく調理を行う際に必要な技術についても考えることができた。「指導の工夫」として冷蔵庫の中身から献立を考えることで、より実生活に近い形で学習の動機づけを行った。冷蔵庫の中に菊陽の名産であるにんじんを入れることで、地産地消や旬を感じるができるようにした。また、賞味期限や消費期限を提示することで食品ロス・SDGsにつながるようにした。

④ 本日の公開授業

振り返りの工夫として、「ロイロノート」を使用しながら、学習のゴールと単元を通した学習の見通しをもてるようにした。生活とつないで考えることができるように振り返りを工夫した。

(2) 指導講評

市町村教育局義務教育課指導主事 清永康代 様

学習指導要領、小学校家庭科の目標を改めて確認すると、技能を身につけることにより「できるようになった！」という実感を味わい、日常生活から見いだした課題を解決することで「問題は、こうやって解決すればいいんだ！」と解決方法を考え、日常生活をよりよくしようと工夫することで「やってみよう！」と実践的な態度を養うとしている。また、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とは、学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境に係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築の4つの視点で捉え、自立し共に生きる生活を創造できるよう工夫することを示したものである。

① 研究の取組について

児童の実態に応じた授業づくりがなされている。児童の生活経験や家庭背景は様々であり、生活を変えた方がいいと思う児童は約4割にとどまっている。学校でチャレンジし実践する場を設定すれば、変わっていくことやできるようになることを楽しめるのではないかと。設定家族を提示したことで自分の生活と比べたり、共感したりしながら問題を見いだすことができる。また、一人調理の場を設定することで、技能の確実な習得につながる。SDGsの意識づけもされている。丁寧な振り返りにより、「知りたいこと・できるようになりたいこと」から学習のゴールを設定されていた。

② 本日の授業について

5年「持続可能な社会へ」では、買い物が契約であることを実感できる授業だった。買うときはよく考えて買う必要がある。返品については、お店の厚意であるが可能であることも学んだ。

5年「ミシンにトライ！」では、児童に考えさせたいことや取り組みさせたいことを焦点化した授業だった。授業者の「見方・考え方」の変化が児童の学びに影響した。

6年「今日の食事」では、食事の改善を必要だと思っても実際には取り組めていない実態を踏まえ、自分の食生活を考えることができる授業だった。

た。副菜と汁物だったら自分もできると感じていた。

6年「生活を変えるチャンス！」では、既習事項や児童の興味・関心を生かした課題が設定されていた。それぞれの実態に応じた自己決定の場を確保する必要がある。

③ お伝えしたいこと

家庭科の授業でも、誰一人取り残すことなく、学びを保障するために、児童を学びの主体とする授業を目指していかなければならない。そこで、授業づくりにおいて、次の3点について留意したい。

地域でよりよく生活するために現時点での自分と、なりたいたい自分のギャップを感じることで問題を見いだしている。

児童の多様な実態があるからこそ、学校を実践の場に

家庭での実践は必須ですか？
難しい家庭もあるのですが…

必須ではありません。
学校で実践の場を設定することも可。

・学校給食の時間に低学年の児童と共に楽しく食べるための計画を立て、自分の食事の仕方を自覚し、改善するために考え、工夫する活動
・学校のトイレの清掃の仕方について、洗剤や清掃用具を用いて汚れの落ち方を比較し、その理由を考えたり、調べたりして清掃の仕方を発見して工夫する活動

【小学校学習指導要領解説より、一部抜粋】

3点目は、児童の多様な実態にどう対応するかである。

実態も多様であるが、経験も様々である。学校で実践の場を設定すると捉えるとよい。学習指導要領解説にも取扱の例が示されているので、参考にしてほしい。

④ 最後に

家庭科とは「生活をよりよくしよう」と工夫する資質・能力を育む教科である。他の教科との関連も図って行ってほしい。家庭科が他の教科・領域での学びをつなげる核になり得ると思う。

また、授業者自身が家庭科の良さを実感し、「見方・考え方」を広げることで、児童の「見方・考え方」の広がりも期待できる。

見方・考え方を働かせている児童の姿は？

健康・快適・安全
・ほうれん草の栄養素は…
・じゃがいもの芽には食中毒を起こす成分が含まれているから取り除かなくちゃ

見方・考え方を働かせている児童の姿を、4つの視点で考えてみましょう！
(例)小学校「食生活の生活」は「調理の基礎」
アエ材料に選んだお弁当
(青葉やじゃがいもを扱うこと)

生活文化の継承・創造
・旬はいつ？
・ゆでたほうれん草は、醤油やかつおぶしを使って味を付けると美味しいね

協力・協働
・我が家では、いつも祖母が料理を作ってくれていたなあ…今度一緒に作ってみよう

持続可能な社会の構築
・ゆでる前にお湯を沸かすときは、ふたをしておくとお金になるね
・ほうれん草は根元の部分も調理すると、食品ロスが減らせるよ

(例)小学校A(2)家庭生活と仕事 ～ 家族の生活を観察後、グループで気づきを出し合っています～

いつも、生ごみをチラシで作った箱に入れるのはどうしてだろう？

私の家の生ごみは、コンポストに入れているよ。肥料になったら、家庭菜園で使ったり、近所の方に分けたりして、活用してもらっているよ。
(「健康・快適・安全」、「協力・協働」の視点)

生ごみ燃やすごみに出すなら、水を切って捨てないよ。ごみ処理場で余分なエネルギーを使うことになるよ。
(「持続可能な社会の構築」の視点)

題材終了時の子供の姿を、具体的に設定しましょう！
◎どんなことが分かり、できるようになりたいの？
◎実生活や次の学びにどう生かすの？

1点目は、見方・考え方を働かせるというが、どのような姿がそれに当たるのか、題材終了時の児童の姿を具体的に設定することである。

どんなことが分かりできるようになったらいいのかわ、実生活や次の学びにどう生かすのか、児童と共有していくといい。

「問題を見いだして課題を設定する」学習過程の工夫

と云われても、実際は教師が設定し、児童の自分事になってない…

□「現状」と「なりたいたい姿(自分)」のギャップ
□「A家族・家庭生活」の視点
意識して、児童に問い返してみよう♪

(例)小学校B(4) 衣服の着用と手入れ
「手洗いで衣類を快適に～気持ちよく、長く、大切に～」
洗濯機があればいいのでは？
洗濯はいつも家族がやっています…
どうして家族は毎日洗濯してくれるの？
わざわざ手洗いののはどんな時か、家族に聞いてみてごらん。

(例)中学校A(3) 家族・家庭や地域との関わり
「私が地域の力になる～地域でよりよく生活するために～」
地域との関わりにおける中学生の課題
地域が抱える課題
地域の人々の思い
子供たちの思い
「なりたいたい自分」
現状 ←→ 思い(なりたいたい姿)

◎「洗濯機があるのに、手洗いをやる」意味を考えさせる
→「やってみよう」家族の役に立ちたいという思いを引き出し、自分にできることを子供自身が考えたい

◎中学生と地域の、それぞれの課題・思いを共有し、両者のギャップに気付かせる
→「具体的に何を実践するのか」「実現可能か」を問い返す

2点目は、児童が自分事として問題を見いだし課題を設定する学習過程の工夫である。児童に「どのようになりたい？」と意識して問いかけてみてはどうか。

中学校の「家族・家庭や地域との関わり」では、